

	<p>オーガナイ 田子 寿文</p>	<p>3DNetworkJapan 代表 【顔7イッ?】 [自己紹介] 2008年に3Dコミュニティ「3DNetworkJapan(通称3DNJ)」を全国の技術者有志とともに発足。第一線で国内の3D計測業務に携わる一方、3DNJ代表としてイベント出展や講演・勉強会など、3D計測技術の利活用についてのPR活動をおこなっている。</p>	
	<p>岡本 翼志</p>	<p>大手前大学史学研究所 助教 97年からレーザー三次元計測技術をもいた文化財の形状記録と3Dプリンタの制作について研究を行う。国内の仏像、美術工芸品、石垣、遺物、機軸文化財など多数の文化財記録を行ってきた。近年では、エジプト、アルゼンチン、ケントカウエス女王墓、トルコハギア・ソフィア大聖堂など海外の建造物の三次元計測に従事。2015年59体の仏像を計測した結果を掲載した『達磨寺仏像群調査報告書』を刊行。現在は、計測したデータを公開するための技術について調査・研究を</p>	<p>多岐にわたる文化財計測 ～古墳から産業遺産まで～ 文化財は、古代の遺物や遺跡から始まり、近代の産業遺産や建造物など多岐に及ぶ。史学研究では、考古遺物、美術工芸品を中心として三次元計測を行ってきたが、近年では大規模な工場(産業遺産)を計測する機会も増えてきている。今回は、史学研究所が行っている活動について紹介したい。</p>
	<p>大高 広和</p>	<p>個人づくり・県民生活部 文化振興課 世界遺産登録推進室 主任技師 【自己紹介】 東京大学人文社会系研究科博士課程にて日本古代史を専攻し、2012年7月より現職。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録作業に従事し、主に遺産群の価値の説明・解説と各種広報物の作成を担当している。 ・所属学会：史学会、東方学会、唐代史研究会、正倉院文書研究会、九州史学研究会 ・博士(文学)</p>	<p>世界遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」における「UAV・3D計測」の活用? 2017年7月に世界遺産登録された本遺産群は、その中核となる沖ノ島に立ち入ることが許されない一方、今もなお信仰の対象であるため、その価値を伝える工夫が必要である。特に重要な古代祭祀遺跡は、原生林に覆われた島内の巨岩群の上や下、あるいは岩の間に位置し、効果的なアングルでの撮影も難しい。また、構成資産の一つである新原・奴山古墳群も、かつて入海が広がっていた古代の景観を現状ではイメージすることは難しい。こうした古代の遺産群の価値を来訪者に分かりやすくかつ臨場感をもって伝えるため、3D計測によるデータを活用した映像等の製</p>
	<p>富増 佳晴</p>	<p>大塚オーエ陶業株式会社 業務・開発推進室 大型陶板の製造・開発および営業部門を経て2016年より現職。主にセラミックアーカイブの製造技術に3D技術を融合した新たな製造技術の開発をおこなっている。</p>	<p>陶による文化財の複製における展示活用事例 平面主体であった陶板による文化財複製から、立体複製へと驚がる独自のやきもの技術は、これまでの仕上げ工程の手仕事はそのままに、形状の複製工程を中心に3D計測などのデジタル技術を融合することにより高精度な陶のものづくりへと進化させている。 本フォーラムでは、やきものによる文化財の複製において、大塚 国際美術館における展示を中心に、その活用事例を紹介する。</p>